

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校
1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立 (1) 通信制の機能強化を進めるため、校内運営組織を強化し、働き方改革を進める。 ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた通信教育システムの検討 イ 大阪府学校教育審議会答申に基づいた通信制の機能強化についての検討 ※運営委員会を中心として組織的に各種課題解決を図り、令和 9 年度には卒業予定生の卒業率 75%以上をめざす。 (R 4 71%、R 5 70%、R 6 73%)
2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上 (1) 通信制における観点別学習状況評価の更なる研究を進め、生徒の実態に合ったレポートの作成と、スクーリング内容の精選、及び指導方法を改善する。 ア 学習の理解が深まり、「主体的な学び」に繋がるレポートの作成及び添削指導 イ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングを通じてスクーリング力の向上を図る。 ウ 教育活動における ICT 化の推進 エ 学習が進まない生徒への支援 (2) 人権尊重の教育の推進 ア 3 年間を見通した人権教育計画の策定と実施 (3) 教職員研修の充実 ア 初任者転任者への研修を充実させ、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への参加及びその共有を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポートに関する肯定的評価 90%程度を維持する。 (R 4 レポート 93% R 5 レポート 92% R 6 93%) ※教職員向け学校教育自己診断における「(経験の少ない教職員を) 学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を令和 9 年度には 80%をめざす。(R 4 75% R 5 60% R 6 48%)
3 生徒支援と相談体制の強化・充実 (1) 生徒及び未成年生徒の保護者との面談や外部連携を推進し、支援体制を充実させる。 (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。 (3) 通信制の生徒に学校生活を楽しむ機会を保障する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「気軽に質問や相談をすることができる先生がいる。」の肯定的評価を令和 9 年度には 75%をめざす。 (R 4 73% R 5 69% R 6 66%) ※ 生徒向け学校教育自己診断における「安心して学校生活が送れている。」の肯定的評価を令和 9 年度には 95%をめざす。 (R 4 89% R 5 90% R 6 88%)
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実 (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施 (2) 進路情報の発信 ※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的評価を令和 9 年度には 80%をめざす。(R 4 78% R 5 62% R 6 71%) ※ 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を令和 9 年度には 75%をめざす。 (R 4 69% R 5 72% R 6 73%)
5 情報発信・広報活動の充実及び防災教育の取組み (1) 情報発信の充実 ア 学校 HP、桃谷通信（冊子）の内容の充実をはかるとともに学習支援クラウドサービスアカウントの活用を拡充する。 (2) 広報活動の充実 ア 学校説明会、学校 HP の充実 (3) 防災教育の取組み ア 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施 イ 安全で安心な学校づくり

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R6年度値〕	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立	(1) 通信制の機能強化を進めるため、校内運営組織を強化し、働き方改革を進める。	(1) ・分掌、教科の機能を高め運営委員会を中心とした学校組織を強化し、働き方改革を進める。	(1) 運営委員会の充実 ・教員向け学校教育自己診断における「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価〔32%〕、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」の肯定的評価〔39%〕を共に 50%以上とする。 ・30 時間超の月平均人数を昨年度より減少させる。〔4.2 名〕	
	ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを踏まえた通信教育システムの検討 イ 大阪府学校教育審議会答申に基づいた通信制の機能強化についての検討	ア、イ ・通信教育を必要とする生徒を支援できる取組みを検討する。その中で 2 期制や午前中の活用等について検討を進める。	ア ・教員向け学校教育自己診断の質問項目「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率を向上させる。〔61%〕 イ ・2 期制のスクーリング案を完成させる。	
2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上	(1) 通信制における観点別学習状況評価の検討を進め、生徒の実態に合ったレポートの作成と、スクーリング内容の精選、及び指導方法を改善する。	(1) ・観点別評価導入の状況を教員全体で共有し改善を図る。 ・生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫を教員全体で共有する。	(1) ・教員向け学校教育自己診断の質問項目「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率を向上させる。〔61%〕（再掲） ・教員向け学校教育自己診断「主体的に学習に取り組む生徒の育成について、教員でよく話し合っている」の肯定的評価を向上させる。〔48%〕	
	ア 学習の理解が深まり、「主体的な学び」に繋がるレポートの作成及び添削指導 イ 公開スクーリングの実施と研究スクーリングを通じてスクーリング力の向上を図る ウ 教育活動における ICT 化の推進	ア、イ、 ・学校教育自己診断結果やレポート添削評価の分析を通し、レポート作成、スクーリング内容、及び指導法の改善を行う ・研究スクーリングを継続し検討の機会を確保し、内容の充実を図る。 ウ ・スクーリングをはじめ特別活動、総合的な探究の時間等で ICT の活用を進める。	ア、イ ・生徒向け学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価それぞれ 90%程度に維持する。〔レポート 93%、スクーリング 93%〕 ・教員向け学校教育自己診断「教員の間でスクーリング方法等について検討する機会を持っている」の肯定率を向上させる。〔65%〕 ウ ・教員向け学校教育自己診断「コンピューターの情報機器を各教科のスクーリング等で活用している」の肯定率を向上させる。〔87%〕	

府立桃谷高等学校 通信制の課程

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
	（２）人権尊重の教育の推進 ア ３年間を見通した人権教育計画の実施 （３）教職員研修の充実 ア 初任者転任者への研修充実させ、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への参加及びその共有を図り校内初任者研修等の充実を図る	（２） ア ・HR 等を活用し、すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む。 （３） ア 転任者研修、人権研修等を計画的に実施し、通信制教育への理解を深め、さらなる充実を図る。 イ 教職員の校外研修への積極的な参加及びその共有を図り校内初任者研修等の充実を図る。	（２） ア ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を昨年度並みとする。〔81％〕 （３） ア、イ ・教職員向け学校教育自己診断における「（経験の少ない教職員を）学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定的評価を向上させる。〔48％〕 イ ・校外研修の報告人数を向上させ、教職員の意識の醸成や人材育成に役立てる。 〔校外研修報告 ４名〕	
3 生徒支援と相談体制の強化・充実	（１）生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談や外部連携を推進し支援体制を充実させる。 （２）要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有を通して危機管理体制を強化する。 （３）通信制の生徒に学校生活を楽しむ機会を保障する。	（１）支援を必要とする生徒を抽出し、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携して組織的な支援を充実させる。 ・２つの相談室を機能的に活用する。 ・SC、SSW、CC の活用。 ・外部団体による居場所事業を継続する。 ・がん教育の実施 （２） ・健康調査の結果、支援が必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する。 ・年度当初（５月）に研修会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かす。 （３）学校行事の在り方を常に見直し、生徒の交流を図る。	（１） ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」〔88％〕「気軽に相談できる先生がいる」〔66％〕の肯定率をそれぞれ昨年度並みとする。 ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を向上させる。〔81％〕再掲 （２）・個別の教育支援計画作成生徒の年度末までの学習継続率を昨年度並みとする。 （30 名中 25 名 83％） ・生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率を昨年度並みとする。〔92％〕 （３）生徒向け学校教育自己診断の質問項目の「学校行事は楽しく参加できるよう工夫されている」の肯定率を向上させる。〔83％〕	
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実	（１）生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施 （２）進路情報の発信	（１） ・キャリアカウンセラーと連携しキャリア教育を充実する。個別面談及び就職関係講座・面接練習の実施。 ・担任との連携を深め、学校全体で進路指導を実施する体制を強化する。そのための教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会を充実させる。 ・就職希望者対象説明会等の実施。 ・就職試験受験者への指導の充実。 ・進学希望者対象説明会等の実施。 （２） ・保護者向け進路説明会の開催。 ・HP、学習支援クラウドサービスアカウントの活用、進路だよりの発行を通し、進路への意識を高める。	（１） ・就職希望者内定率 90％以上を昨年度並みとする。 〔31/31、100％〕 ・生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を向上させる。〔73％〕 ・教員向け学校教育自己診断の「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的数値を向上させる。〔71％〕 （２） ・保護者向け学校教育自己診断の「本校ではお子様に将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率を向上させる。〔69％〕 ・生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある。」の肯定的評価を向上させる。〔73％〕	

府立桃谷高等学校 通信制の課程

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R6年度値〕	自己評価
5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組	(1)情報発信の充実 ア HP、桃谷通信（冊子）の内容の充実をはかるとともに学習支援クラウドサービスアカウントの活用を拡充する。 (2)広報活動の充実 ア 学校説明会、学校HPの充実 (3)防災教育の取組み ア 実践的な避難訓練の実施 イ 安全で安心な学校づくり	(1) ア ・HPにおいて、教科や分掌からのブログを効果的に更新し、生徒への情報提供の充実を図る。 (2) ア ・生徒・保護者対象の学校説明会の内容の充実を図る。 ・中学・高校教員対象の説明会を充実させる。 ・府民及び在校生が本校の通信制教育を理解できるHPづくり。 (3) ア、イ ・効果的な避難訓練の実施に向けて協議するとともに、突発的な事象に対応できる組織力を培う。 ・緊急時のHP作成に対応できるよう対応グループを結成し、体制を整える。	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断「本校のHPはわかりやすい」の肯定率を昨年度並みとする。〔81%〕 (2) ア・ ・学校説明会の開催回数と参加人数を昨年度並みとする。〔6回1058名〕 ・高校、中学校の参加教員数を増加させる。〔高校31名、中学校53名〕 ・生徒向け学校教育自己診断「本校のHPはわかりやすい」の肯定率を向上させる。〔81%〕 上記（1）アの再掲 (3) ア、イ ・教員向け学校教育自己診断「災害や突発的な事件、事故等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができている」の肯定率を昨年度以上とする。〔41%〕 ・HP緊急対応グループの人数を10名とし、大災害に備える。	